

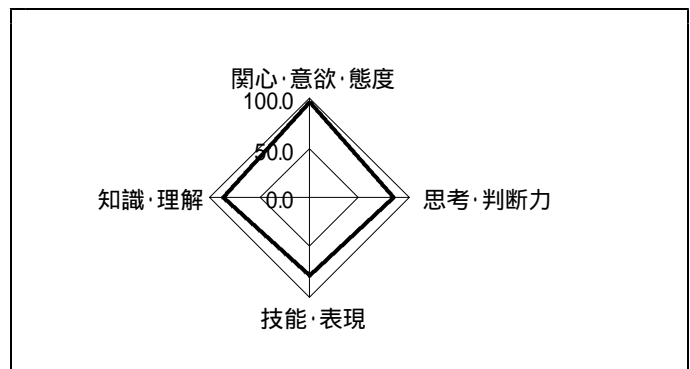
三鷹市立第一中学校 (理)科 授業改善推進プラン(分析)

東京都教育委員会「児童・生徒の学力向上を図るための調査結果」
 三鷹市教育委員会の学習定着度調査の分析 の実施教科のみ

1 東京都教育委員会の実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査結果」の分析

内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
1分野、2分野とも正答率で都の平均よりそれぞれ7ポイント、4ポイント上回った。特に1分野については基本事項の理解がかなりできているものと思われる。	全ての観点で都の平均を上回っている。ただ【関心・意欲・態度】は+0.5ポイントに留まっているが、他の観点は6～7ポイント上回っている。このことについての分析が必要である。	おおむね良好な結果が得られたが、2分野の一部【観察・実験の技能・表現】の値が低いところがあった。

	観点別平均正答率	
関心・意欲・態度	96.1	%
思考・判断力	84.0	%
技能・表現	78.9	%
知識・理解	87.0	%



2 三鷹市教育委員会の学習定着度調査の分析

	データからみた特徴	分析内容
通過率	単に暗記していれば解ける問題の通過率は高いが、問題文に対する読解力や論理的に説明する、などの問題は通過率が低い。	特に科学的な思考に関する問題および地層のでき方、岩石の種類などに関しておおむね通過率が低めである。
到達度	到達度に関しては目標値が低めなことから良好に見える。傾向は通過率に同じ。	通過率に同じ。
平均到達度	66.8%という値は他教科に比べるとかなり低い。三鷹市全体でも同様である。	小学校での履修の仕方のばらつきが他教科に比べて多いのではないかと推測される。特に実験をやったかやらなかったか、ということは決定的に影響する。
達成率	72.4%となり数学との差が縮まる傾向にある。三鷹市全体でも同様である。	これは上位三分の一(A層)の生徒の得点が低めだからか。理科の授業時数が少ない中で、小学校ごとに学習内容が異なっていることと、問題の内容が適切なのか、という点について吟味する必要がある。

三鷹市立第 学校 (理) 科 授業改善推進プラン

3 指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象への関心・意欲・態度を育む指導の工夫 ・実験観察の技能・表現の能力を高めていく指導の工夫 ・科学的な思考力を高めていく指導の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある素材・生物・事象を活用し、教材を開発し、生徒の興味・関心を引き出す授業展開に努める。 ・顕微鏡・ガスバーナーなど、基礎的な観察実験器具の操作方法とその原理を十分な時間をかけて教え、実験技能の定着を果たす。 ・生徒間の議論を通し、科学的な考え方を深め、発表を通して表現力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な素材・事象・生物等を活用した教材の開発に力を入れ、実験や観察の工夫をおこなう。 ・定期テストの前に質問教室を設け習熟度が不足している生徒を援助する。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象への関心・意欲・態度を育む指導の工夫 ・科学的な思考力を高めていく指導の工夫 ・自然事象への知識・理解の一層の定着を図る指導の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心を引き出す教材開発に努めるとともに、生徒に対して指導の目標と評価の観点を明示する。 ・自然界の事象や生物・事物は、法則性や関連性があることに気づくことができるよう、教材の開発や授業展開の工夫に努める。 ・観察・実験及びそのまとめの学習を充実させる。教材の工夫により、生徒自らが基礎基本が確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な素材・事象・生物等を活用した教材の開発に力を入れ、実験や観察の工夫をする。 ・定期テスト前の朝学習を活用し、思考力を問う問題の実戦練習を行い、生徒自らが力をつけていく努力をさせる。 ・選択授業での基礎・基本の補充学習の充実に努める。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解の一層の定着を図る指導の工夫 ・科学的思考力を育てる指導の工夫 ・実験観察の技能・表現の能力を高めていく指導の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験のまとめの学習を重視するとともに、ワークシート等の工夫により、生徒が自ら学習を振り返り基礎的・基本的事項が確認しやすいように工夫する。 ・実験結果からの考察や実験の企画力をレポート等による評価の充実を通して育てていく。 ・基本的な実験技術の習得につとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択授業での基礎・基本の補充学習の充実に努める。 ・定期テストの前に質問教室を設け習熟度が不足している生徒を援助する。 ・身近な素材を活用した教材、実験の工夫をおこなう。